

最終課題

森井雅大 (233x076x)

1. Introduction

世界の電力消費量の増減の要因を調べるために分析システムを作成した。

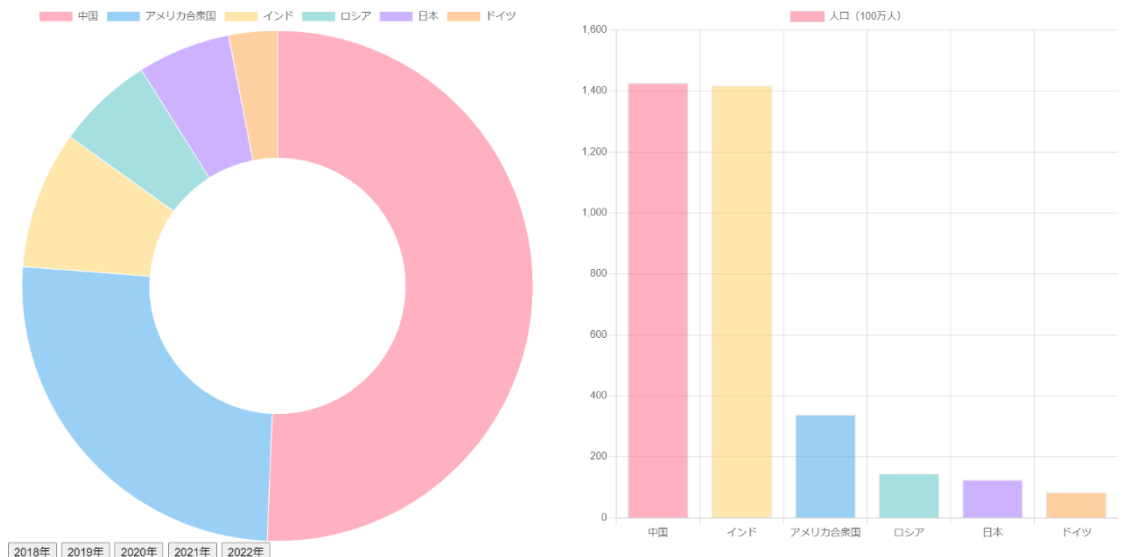
2. Method

中国、アメリカ合衆国、インド、ロシア、日本、ドイツの計 6 カ国の 2018 年から 2022 年の 5 年分の電力消費量と人口のデータを使用した。電力消費量は円グラフ、人口は棒グラフで表示する。選択した年度のデータが表示させるように、年度選択ボタンを追加した。

3. Result

電力消費量については、すべての年度において、中国が最も多く、続いて、アメリカ合衆国、インドの順となっている。ロシアと日本の電力消費量については、2020 年までは、日本の方が多かったが、2021 年からは、ロシアの方が多くなっている。人口については、すべての年度を通して、中国が最も多く、続いてインド、アメリカ合衆国、ロシア、日本、ドイツの順であった。

世界の電力消費量と人口



4. Discussion

電力消費量と人口のデータを比較すると、中国やアメリカ合衆国、インドなどの人口が多い国ほど、電力消費量が多いことがわかる。しかし、インドとアメリカ合衆国では、イン

ドの方が人口は多いが、電力消費量は少ない結果となった。このことから、電力消費量の大小は、人口以外の要因によっても決まることがわかる。今回は電力消費量と人口のデータのみ扱ったため、正確な分析はできないが、産業構造の違いなども電力消費量の大小を決定する要因であると考えられる。

5. Conclusion

今回のシステム作成にあたり、電力消費量は人口の影響を大きく受けることがわかった。また人口の影響を大きく受けるが、他の、産業構造の違いなどによっても電力消費量は変化すると考えることができる。

6. Reference

電力消費量データ [世界の電力消費量 | 電力消費量 | Enerdata](#)

人口データ [統計局ホームページ/世界の統計 2023 \(stat.go.jp\)](#)